

説明書を効果的にご使用いただくために、次のような構成になっています。

I カメラの準備と基本操作

III 応用的な使い方

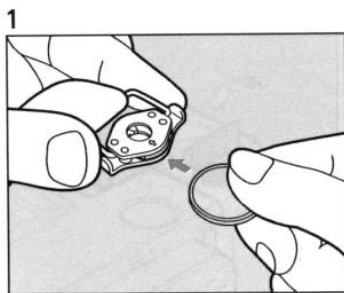
II 基本的な使い方[撮影]

IV その他について

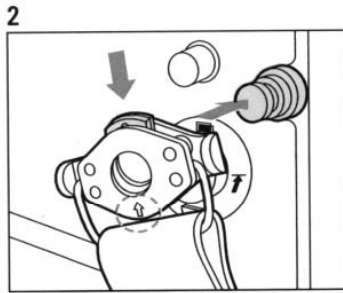
●とにかく撮影をしたい方は「カメラの準備と基本操作」と「基本的な使い方[撮影]」をお読みください。最小限の操作を知っていただくだけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。

I カメラの準備と基本操作 ストラップを取り付けます

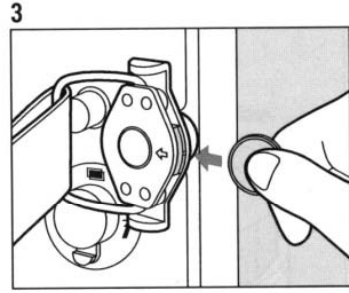
11



1. コインなどでファスナーのロック板を矢印方向に押すとロックが解除されます。

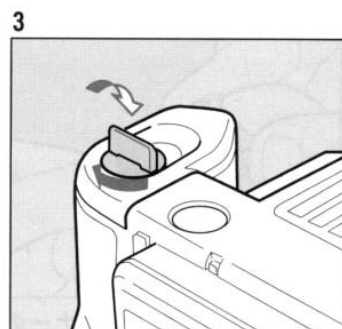
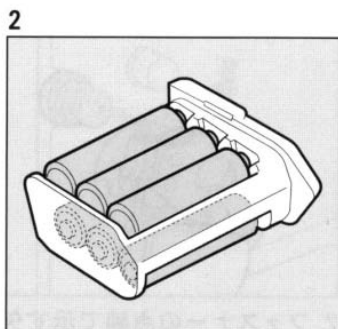
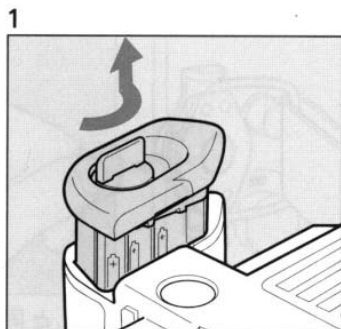


2. ファスナーの点線で示す矢印部分を手前に見えるようにして、穴を吊り金具に入れ、ロック板を元に戻すとロックされます。



3. 取り外す時は、手順1.と同じようにロック板を矢印方向に押してください。

- * ストラップの長さは、留め具で調整してください。
- * ストラップの取り付け後、ストラップを引っ張り確実にロックされていることを確認してください。
- * ストラップにはポケットが付いていますので、小物入れとしてご利用ください。



1. 電池ホルダー着脱つまみを起こし、矢印方向に回して電池ホルダーを取り出します。
2. 単3電池6本をカメラの表示に合わせて入れます。
3. カメラに電池ホルダーを入れ、電池ホルダー着脱つまみを図の方向に回してロックをし、電池ホルダー着脱つまみを元の位置に戻します。

- * このカメラは電池がないと動きませんので、操作をする前には、必ず決められた単3電池を6個入れてください。サンプルの電池が添付されていますので、この電池をお使いください。
- * 電池を入れ替えてもフィルム感度やフィルム枚数はそのまま記憶されています。
- * 海外旅行・寒冷地での撮影や写真を撮るときは、予備電池をご用意ください。別売りのリモートバッテリーパック645(外部電源)を外部電源ソケットに差し込んでご使用いただくこともできます。
- * 電池を交換するときは、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で行なってください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。
- * 長い間使わないときは電池を取り出しておいてください。液漏れの原因となります。

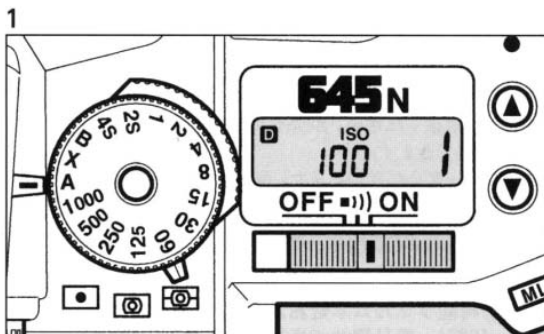
撮影可能フィルム本数およびバルブ時間
[20℃] 新品電池で当社試験条件による。

	アルカリ電池	単3リチウム電池
120 フィルム	約 130 本	約 320 本
220 フィルム	約 100 本	約 250 本
バルブ露出時間	約 8 時間	約 12 時間

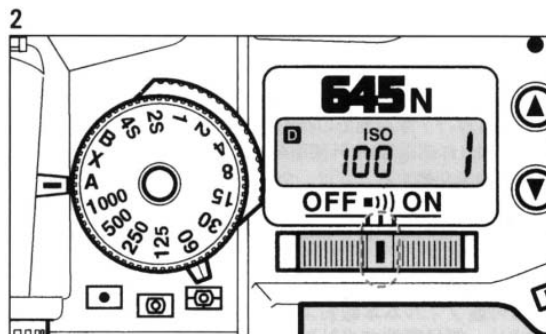
撮影可能フィルム本数およびバルブ時間
[-10℃] 新品電池で当社試験条件による。

	アルカリ電池	単3リチウム電池
120 フィルム	約 7 本	約 120 本
220 フィルム	約 5 本	約 90 本
バルブ露出時間	約 6 時間	約 10 時間

- * 撮影可能フィルム本数は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。
- * 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。
- * Ni-Cd電池もご使用いただけますが、電池の種類によるばらつきが大きく、また低温ではバッテリー警告が出やすいため、できるだけアルカリ電池か単3リチウム電池をお使いください。
- * 同梱されている電池はサンプル用の電池のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。

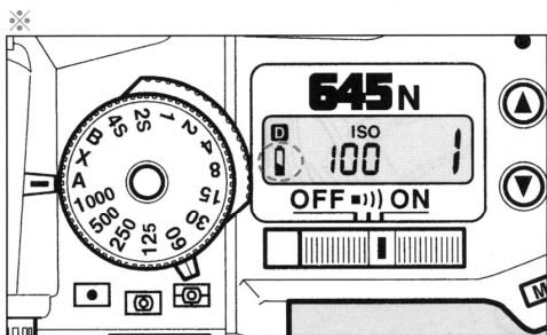


1. 電源スイッチを **ON** 位置にすると電源が入り、電源スイッチを **OFF** 位置にすると電源が切れます。



2. 電源スイッチを **OFF** 位置にするとピントが合ったときに「ピピッ」と電子音が鳴ります。

- * 使わないときは、必ず電源を切っておいてください。シャッターボタンが押されると電池が消耗します。
- * 電源が **OFF** 位置でも表示パネルのフィルム枚数表示は常に表示されます。

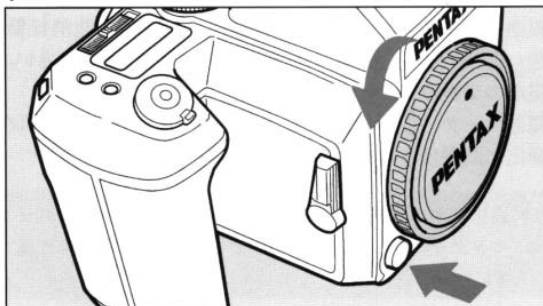


※電池が消耗した場合

電池が消耗すると、図のように表示パネルに電池消耗警告  が点灯します。お早めに電池を交換してください。電池の交換は12ページをご覧ください。電池マーク  が出たままでも、シャッターが切れば露出に問題はありません。

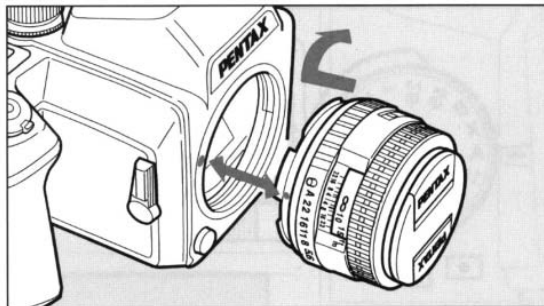
- * 表示パネルの電池消耗警告  が点滅になると、ファインダー内の表示は消え、カメラが作動しなくなります。

1



1. レンズ取り外しボタンを押しながら、ボディーマウントキャップを外します。

2

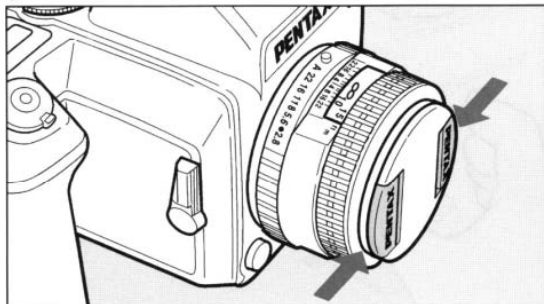


2. レンズのマウントキャップを外しカメラとレンズの赤点のマウント指標を合わせて、レンズをカメラにはめ込み、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。

- * レンズ取り付け時は、レンズ取り外しボタンを押さないでください。レンズの取り付けが不完全になります。
- * レンズ取り付け後は、レンズを取り付け方向とは逆に軽く回して、確実に取り付けていることを確認してください。

17

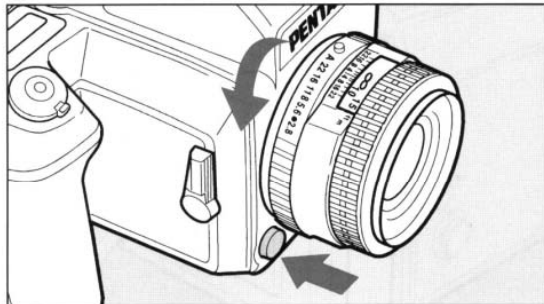
3



3. レンズキャップは、矢印部分を内側に押すと外れます。

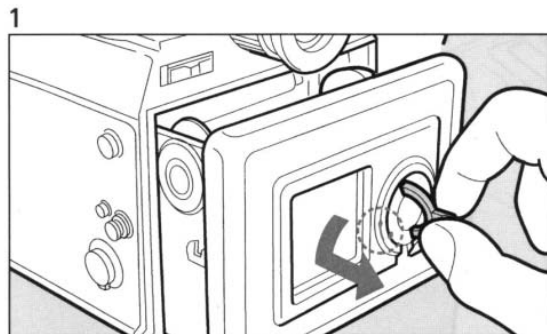
- * オートフォーカス対応でない従来レンズ[Aレンズ]もこのカメラに取り付けてほとんどの機能がそのまま使用できます。ただし、オートフォーカスは動きません。
- * 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
- * カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカブラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

※



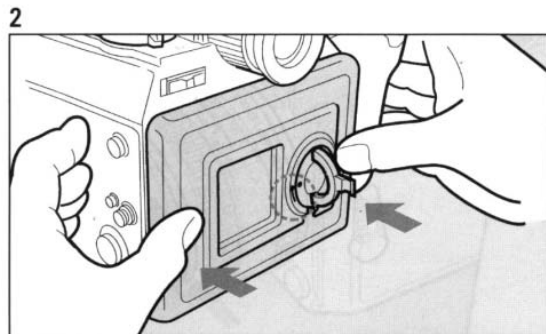
- ※ レンズを外すには
レンズを外すときは、レンズ取り外しボタンを押したまま、レンズを左へ回してください。

- * 外したレンズは、マウント周辺を傷付けないため、カメラに取り付く面を下にして置かないでください。



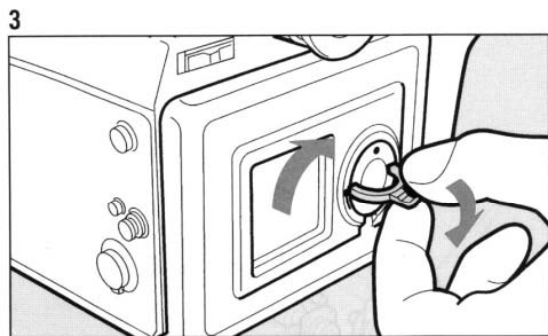
外し方

1. フィルムバック着脱つまみを起こして、赤点部分まで回し更に左に回すとフィルムバックが外れます。



付け方

2. 図の赤点部分が合っていることを確認後、フィルムバックの左右の端を「カチッ」と音がするまで押し込んでカメラに差し込んでください。

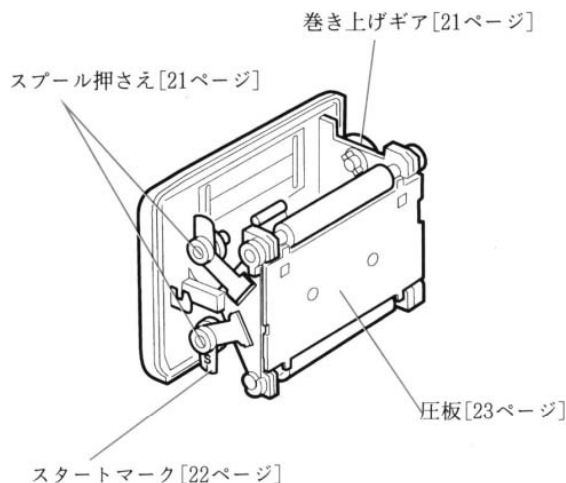
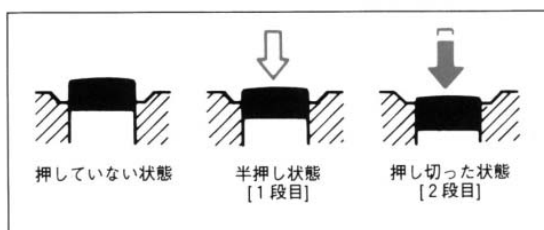


3. フィルムバック着脱つまみを右に 90° 回してロックします。フィルムバック着脱つまみは下に倒しておきます。

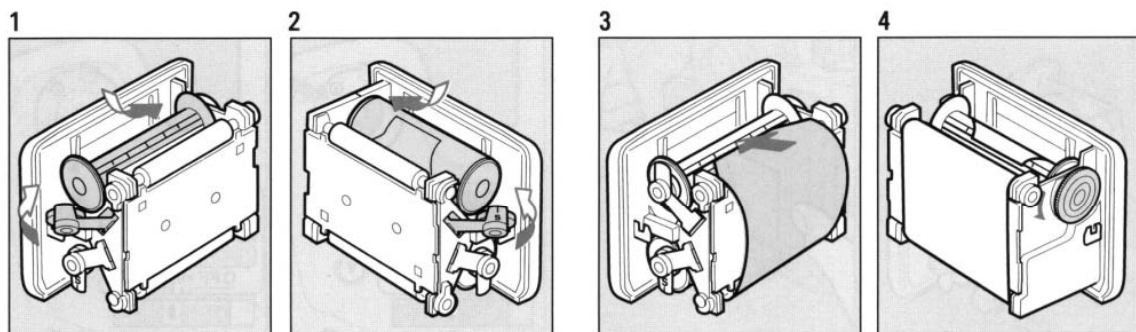
- * フィルムバックの上下を逆にして無理に入れると故障の原因になります。
- * 別売りの 220 フィルムバックも操作は同様です。

シャッターボタンは2段階になっています。シャッターボタンを半押しすると[1段階まで押す]、ファインダー内の表示が表示され、オートフォーカスが働きます。さらにシャッターボタンを押し切る[2段階まで押す]と、シャッターが切れ撮影できます。

- * シャッターボタンは、カメラぶれを防ぐためにも、指の腹でゆっくり押してください。
- * フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押すと半押しになるのか、感覚をつかんでください。
- * ファインダー内表示は、シャッターボタンを半押ししてから約10秒間は指を離しても表示されたままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、表示は継続します。

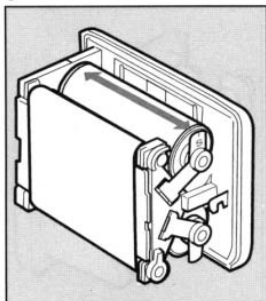


フィルムを入れた後、必ずフィルム感度の設定を行ってください。24ページをご覧ください。

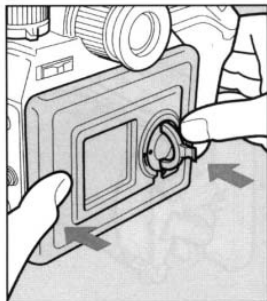


1. 空スプールを図の位置に入れ、スプール押さえで止めます。
2. 新しいフィルムのシールをはがし、黒い何も書かれていない面が外側になるようにフィルムバックに入れ、スプール押さえで止めます。
3. フィilm先端を空スプールの溝に差し込みます。
4. フィルムを軽く押さえながら巻き上げギヤを矢印方向に回します。

5



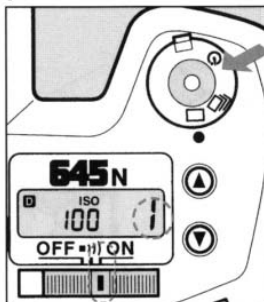
6



5. 巻き上げギヤを回していくと、図のようにスタートマーク(矢印)が出てきますので、フィルムバックのスタートマーク **S** (赤線) に合わせてください。
6. フィルムバックをカメラにセットします。

* フィルムバックをセットする際は、カメラに電池が入った状態で行ってください。

7



8



7. 電源スイッチをONにして、シャッターボタンを押すと自動的にフィルムが1枚目まで送られ、表示パネルに **1** が表示されます。
8. 表示パネルの **E** 表示が点滅しているときは、フィルムが正しく入っていません。もう一度正しく入れ直してください。

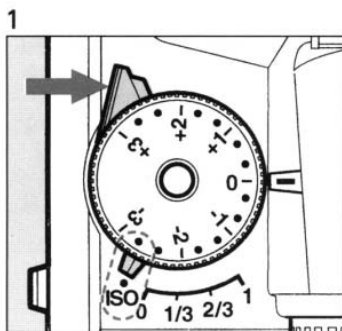
* 多重露出がセットされている状態では、表示パネルのフィルム枚数の **0** が点滅します。多重露出を解除し、シャッターボタンを押し直してください。

* 手順「7」で、シャッターボタンを押す前には、表示パネルに **0** が表示されます。

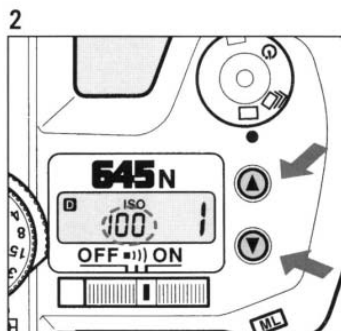
23

- * フィルムには直射日光が当たらないようにご注意ください。
- * カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。
- * 表示パネルのフィルム枚数表示は、撮影するごとに1つずつ進みます。
- * フィルム傷の原因になりますので、圧板は常にきれいにしておいてください。ごみや汚れが付いたときは、きれいな布で拭いてください。
- * 空スプールの溝から飛び出たフィルム先端部分はスプールに沿って折り曲げてください。フィルムのゆるみや太巻きの原因になります。
- * フィルムの入っていないフィルムバックをカメラに取り付けた場合、まれに表示パネルの **E** 表示が点滅します。この場合、フィルムバックの着脱を何度かして **E** 表示が消えればそのままお使いいただけます。

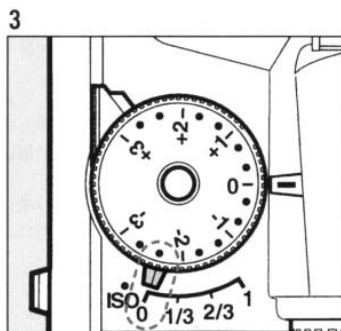
- * 220 フィルムの場合、スタートマークの矢印の前に点線のマークが出てきます。この点線をスタートマークに合わせますと、最初の約3枚分が未露光となります。
- * スタートマークより後側に合わせると、最後のコマが正しく露光されなくなります。
- * 撮影途中でのフィルムバックの交換はできません。
- * 120 フィルムでは16枚、220 フィルムでは33枚の撮影が可能です。



1. オートブラケットレバーを **ISO** 位置に押しつけます。



2. アップ・ダウンボタンで感度を設定してください。アップボタン **▲** では数字が大きい方に、ダウンボタン **▼** では数字が小さい方に変化します。



3. 設定終了後、オートブラケットレバーを **0** 位置に戻します。

* オートブラケットレバーから指を離すと自動的に **0** 位置に戻ります。

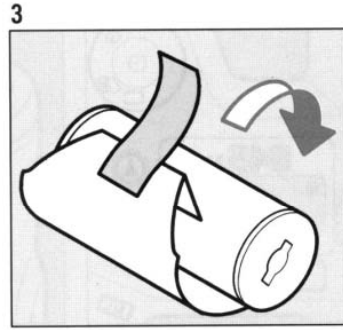
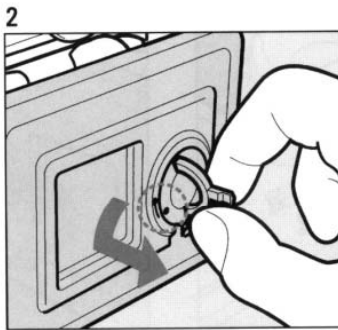
- * オートブラケットレバーが **ISO** 位置では表示パネルの **ISO** 表示が点滅し、ファインダー内の表示は消えます。
- * フィルム感度は ISO6~6400 の間で 1/3 段階毎に設定できます。
- * フィルムバックのメモホルダーに使用フィルムの箱のふたを切り取って入れ、フィルム種類の確認用としてご利用ください。
- * 表示パネルのフィルム感度値と **ISO** 表示は電源が ON であれば常に表示されます。

フィルムの規定枚数が終了したら

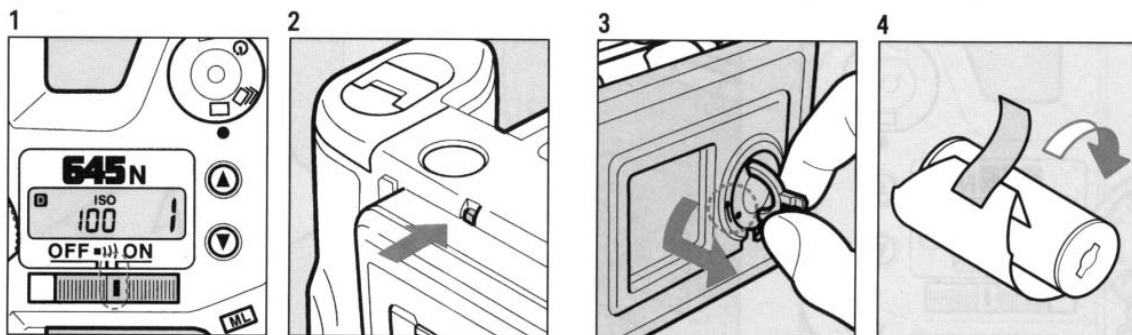
25



1. フィルムを最後まで撮り終わると、自動的に巻き取って停止し、表示パネルに **End** が表示されます。
2. フィルムバックをカメラから外します。
3. フィルムを取り出し、先端を内側に折り曲げてからフィルムに付いているシールでフィルムがたるまないように止めてください。



- * フィルムには直射日光が当たらないようにご注意ください。
- * フィルムバックを外すと表示パネルのフィルム枚数表示は消えます。



フィルムを最後まで撮り終わらないうちに、途中で取り出したいときに使います。

1. 電源スイッチを **ON** 位置にします。
2. 途中巻き取りボタンをペンの先などで押すと、フィルムを最後まで巻き取ります。
3. 表示パネルの **End** 表示を確認してから、フィルムバックをカメラから外しフィルムを取り出します。**End** が表示されないときは、再度途中巻き取りボタンを押してみてください。

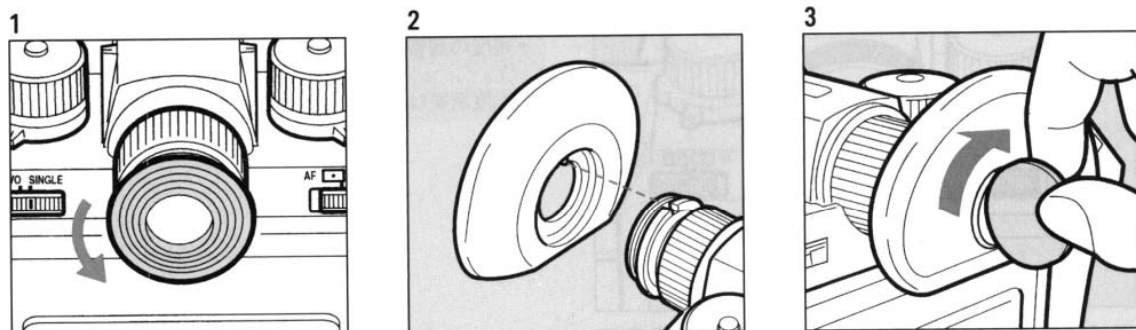
End

4. 先端を内側に折り曲げてからフィルムに付いているシールでフィルムがたるまないように止めてください。

- * 途中巻き取りボタンは止まる位置まで完全に押し込んでください。フィルムが正しく巻き取られない場合があります。
- * フィルムは直射日光が当たらないところに取り出してください。
- * フィルムバックを外すと表示パネルのフィルム枚数表示は消えます。
- * フィルム巻き取り中は、表示パネルのフィルム枚数表示が順に増えていきます。

大型アイカップの取り付け方

27



このカメラには、標準のアイカップの他に大型のアイカップが付属しております。お好みで使い分けてください。

取り付け方

1. 図の部分に左に回して標準アイカップを外します。
2. 大型アイカップの固定ピンとアイピースの溝を合わせて取り付けます。
3. コインなどを溝に入れて右に回して固定します。

- * 大型アイカップを外すときは逆の操作で行います。
- * レフコンバーターなどのアクセサリを取り付けるときは、アイカップを外してから行います。
- * 1円、50円など小さな径の硬貨を使用すると、ファインダーの接眼レンズに接触し、傷を付ける恐れがあります。